

事例 15 「御柱おんぼしらの森」での森林づくりもり

(中部森林管理局 南信森林管理署)



- ・長野県諏訪郡(すわぐん)下諏訪町(しもすわまち)東俣(ひがしまた)国有林
- ・(左) 防鹿ネットの取り付け (右) 斧入れをする氏子

南信森林管理署管内の諏訪地域では、古くから、「寅」と「申」の年に、諏訪大社の社殿の四隅に「御柱おんぼしら」と呼ばれるモミの巨木を曳き建てる式年造営御柱大祭しきねんぞうえいみはしらたいさいが行われています。

同署では、式年造営御柱大祭しきねんぞうえいみはしらたいさいで使用される御柱用のモミを将来にわたり持続的に供給できるよう、御柱の森づくり協議会と協定を締結して、国有林野内に木の文化を支える森「御柱の森おんぼしら」を設定しています。同協議会は、「御柱の森おんぼしら」において、同署の技術的支援を受けつつ、モミの植栽、つる切、シカ被害対策等の森林づくり活動を行っています。

また、同署では、諏訪大社からの依頼を受けて、令和4年春の式年造営御柱大祭しきねんぞうえいみはしらたいさいに使用されるモミを令和3年度に供給しました。伐採に当たっては山の神を祀り、安全に伐採が行われるよう神事が執り行われ、氏子たちによってモミの伐採が行われました。

今後も、同署では、地域の伝統行事である式年造営御柱大祭しきねんぞうえいみはしらたいさいで使用される御柱用のモミを将来にわたり持続的に供給できる森林づくりを推進していきます。